

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【I、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ】
2 実施対象者	札幌市立中の島中学校 全学年 378名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（保健体育） ② 行事名（ ） ③ その他（講演会 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	- 子どもがオリンピックやパラリンピックの理念や価値を学ぶとともに、スポーツの価値の再認識を通じ、スポーツに親しむようになるとともに、国際的な視野をもって世界の平和に貢献できる。 - 社会の課題の発見や解決に向けて他者と協働しつつ主体的に取り組む態度や、多様性の尊重（人間としての共通性、他者への共感、思いやり、優しさ等）、公德心（マナー、フェアプレー精神、ボランティア精神、おもてなし精神等）を高める。
5 取組内容	○指導計画【3時間扱い】 ①校長から「オリンピック・パラリンピック」についての全校授業（1時間） ②オリンピックである 川端 絵美 氏をお招きしての全校講演会（1時間） ③保健体育・体育理論 3 年において「オリンピック・パラリンピック」についての授業（1時間） ○取組の様子 ①校長から全校生徒に向けて、オリンピック・パラリンピックに関するDVDを視聴するなどして、スポーツのもつ教育的な意義を学び、スポーツが人々の相互理解を深めることで、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていることを理解した。またフェアプレー精神についても理解を深めた。



	②オリンピック・パラリンピアン講演会を全校道徳として位置付け実施し、「高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつこと」の大切さや「オリンピック・パラリンピックを通じた国際理解や国際平和」などについて学んだ。 ③保健体育の体育理論（３年）において、オリンピック・パラリンピックを題材として扱うことで、スポーツの価値への理解を深めるとともに、規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等について考える授業を展開した。また、スポーツの世界だけでなく日常生活にもその精神を活用できるよう指導した。	
6 主な成果	・事前学習としてオリンピック・パラリンピックの歴史、意義、種目、国際親善における役割、問題点等についての校長講話を実施し、ある程度の予備知識をもった上で、川端氏の講演会に臨むことができたことは効果的であった。 ・校長講話の中で、「札幌オリンピック」について、ある程度の時間を取り触れることができたので、生徒はオリンピックを身近なこととして捉えるとともに、スポーツへの関心を高めることができた。 ・川端氏の講演では、目標を設定し努力することや、悔いが残らぬようやり通すことの大切さについて、世界に視野を広げ多くの経験を積むことの重要性などについて話していただいたことは、生徒にとって心に響く話であった。また、映像を使用するなど分かりやすく生徒の興味を引く内容であった。	
7 実践において工夫した点	・オリンピックの講演を中心に据え、事前学習（校長講話）、事後学習（体育理論）を適切に配置することによって、オリンピック・パラリンピックについての理解を一層深めるようにした。	
8 主な課題等	・オリンピック・パラリンピック教育を年間カリキュラムに位置付ける際には、どの領域で、どの教科で扱うのかについて、教科等横断的な取組例を示していく必要がある。 ・本校の事後学習の体育理論については３年のみであった。今後は、１・２年の体育理論における事後学習について、取り扱う時期や内容について検討する必要がある。	
9 今後の取組について	・2019 年度当初より、スムーズにオリンピック・パラリンピック教育が展開されるよう、今年度の反省を生かし来年度の取り組む時期や領域・教科等について整理し、教育課程における位置付けを明確にする。 ・来年度以降もオリンピックやパラリンピアン講演を継続していくために、今年度、実践した学習の流れを見直し、より効果的な内容になるよう再検討する。	